

Wordだより

第4号

平成30年1月20日発行

FNK Word同好会

編集：tadayoshi yamada

I、平成30年1月ワード同好会活動報告

Word同好会を開講して3年が経過しました。3年間で配布したテキスト等の資料を整理し、メールで配布資料を送りダウンロードしてもらいましたが、容量が多いためうまくいきませんでした。

次回、CDに収録したものを配布する予定です。

2、2017年12月28日の西日本新聞記事のを紹介します。

年賀状の投函はもうお済だろうか。わが家は宛名印刷をする段になって古いプリンターが天寿を全う。さて、困った、大量の手書きはおっくうだし、時間もない。悪筆を思えば、なおさら腰が引ける。結局、買い替えるはめに▼賀状に限らず、手書きの機会はめっきり減った。新人記者の頃は、鉛筆を握りしめて原稿用紙とにらめっこ。指にはペンだこができた。いつの間にやら紙と鉛筆はワープロやパソコンに▼「字が下手になる。漢字を忘れる。何より気持ちが伝わらない」と、最後まで手書きにこだわった先輩もいた。若い記者が10本の指を使って原稿を書くのを横目に・・・。

“1本指打法”でキーと格闘していた姿を思い出す▼それも今は昔。いずれは「キーボードが得意なのは旧世代」と言われようか。近頃はパソコンのキーボードがうまく打てない新人社員が多いそうだ。理由は、体の一部のようになじんでいるスマートフォン▼今時の若者は、インターネット検索やメール、短文のやりとりはスマホでぱっぱ、と親指を猛烈な速さで動かして文字を打つ。一方で、キーボードに触れることがほとんどない人も。新入社員にキーボードの練習をさせる企業もあるとか。▼これからは年賀もネットで済ませ、はがきを書く習慣は廃れていくのかもしれない。そう思えば鬼籍に入り、賀状を頂くこともない先輩たちの癖のある文字が、ことさら懐かしく。

2017.12.28 西日本新聞「春秋」より

